近年発見された天明浅間噴火・寛保二年水害関連資料の解読と市民との連携について（中間報告）

Decoding recently discovered Tenmei Asama eruption / Kanpo 2-year flood related materials and cooperation with citizens

大里重人[1]　小宮雪晴[2]　蓮田市市民ボランティア学芸員養成講座参加者[2]

1　株式会社土質リサーチ　2　蓮田市教育委員会

概　　要

くずし字で記載された土木構造物の目論見書（設計書）や災害に関する日誌類，あるいは記録については，内容の解釈については工学や理学の研究者，くずし字の読解や内容の把握については歴史・文学系の研究者との連携のもとに行う必要がある。本発表は，近年発見された天明浅間噴火や寛保二年水害の絵図を含む古典籍をもとに，その内容についての把握，解釈に対して，教育委員会や市民，土木・災害研究者とのとの連携により実施した翻刻作業及び分析について，その概要と経緯，意義や課題，今後の方向性について提示するものである。

キーワード：古典籍，翻刻，天明浅間噴火，戌の満水，災害，くずし字

1.　は じ め に

土木工学や地盤工学。あるいは地学，災害学などの事象や対応方法，その伝承は，古くから延々と引き継がれてきている。

伝承の仕方については，口伝のほか，文書資料による伝承も行われているが，日本において活字による活版印刷が普及する明治以降になるまで，一部は昭和初期まで，その多くはくずし字を用いた文書として残されている。

これらの文書については，現在の土木工学や地盤工学に寄与するものも多いにかかわらず，解読の難しさから嫌煙されることも間々ある。

近年，このような状況に対し，「みんなで翻刻」[1)]や「古典籍文理融合研究会」[2)]のように積極的にくずし字で記載された文書類を読み込み，理学や工学の知識をもとにそこに書かれている内容を検証しようという動きも生まれている。

また社会教育の流れの中で，くずし字を読む会が各所で開かれていることも，近年のトレンドとして見受けられる。

本報告は，最近発見された江戸後期の絵図を伴う文書について蓮田市教育委員会に所属する市民ボランティア学芸員養成講座参加者グループ[3)]（以下市民ボランティア学芸員とする），あるは蓮田市教育委員会の学芸員諸氏と共にくずし字文書の解読並びに連携を行った事例について現在までに行われているやり取り及び文書自体に記載されている内容のうち，天明浅間噴火に関する絵図及び文書内に書き込まれているその内容について記すものである。

2.　発見された江戸後期の文書の概要

今回の解読を行っている江戸後期の文書は，享保十六年（西暦 1731 年）～文政十年（西暦 1827 年）の 96 年間に起こった災害（火山噴火，水害，火災）や耕作物の状況，相場変動等に関して覚書を綴った文書である。

このうち火山噴火は天明浅間の噴火，水害は寛保二年の洪水について絵図とともに被災状況や災害減少についての記述が掲載されている。また，絵図がないものの小諸市内で発生した火災に関する記述が詳細に書かれている。

さらに 96 年間，毎年の作物相場についての記載がつづられ，内容については現在分析中であるが気候変動や災害の影響や災害現象の実態について検証するための一助となる可能性もある。

本報告では文書自体の真偽及び綴られた経緯，あるいは内容そのすべてについて記述することはまだできないため，天明浅間噴火絵図を中心に報告する。

2.1　天明浅間噴火絵図について

図 1 に本文書に添付されている天明浅間噴火絵図群を示す。

天明浅間噴火に関する絵図を伴う文書は，今回発見された文書以外でも複数存在している。それらのうちいくつかの絵図は，インターネットでも閲覧することが可能であり，見つかった範囲での絵図に関して，絵図の名称と記載範囲，その特徴を示すと表 1 のようになる。

図 1　今回発見された天明浅間噴火に関する絵図群

表 1　天明浅間噴火に関する絵図を伴う資料の記載内容比較 3) 4) 5)

古典籍名	絵図の記載事項	アドレス	所蔵館
天明三年浅間山噴火	降灰状況（人的被害等の記載は図中に無） 吾妻川・利根川沿いの影響があった宿場の名	http://rarebook.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/ishimoto-old/8/08-008/00001.jpg	東大地震研図書室
信州浅間山大焼上州郡馬郡吾妻郡流失村々記之	吾妻川流域の流失村名、被害状況（人的被害の記載は極少） 泥流の層厚、流出幅	http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/tokubetsudb_resources/contents/01/003/000003482.jpg	東大地震研図書室
浅間山大焼真圖	浅間山体周辺の泥流流出状況、噴火状況、噴火時系列	http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/tokubetsudb_resources/contents/01/026/000026720.jpg http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/tokubetsudb_resources/contents/01/026/000026724.jpg http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/tokubetsudb_resources/contents/01/026/000026732.jpg	東大地震研図書室
天明三年浅間大焼之圖	吾妻川・利根川（幸手付近まで）筋の影響があった村の名 人的被害人数の一部記載	http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/tokubetsudb_resources/contents/01/027/000027040.jpg	東大地震研図書室
天明三年癸卯六月　沙降記 ［蕗原拾続巻之五十二］	河川（吾妻川・利根川渋川付近まで）沿いの被災村名、泥流水位 被災した村の人的被害人数、流出岩塊規模	http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/tokubetsudb_resources/contents/01/011/000011265.jpg http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/tokubetsudb_resources/contents/01/011/000011295.jpg http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/tokubetsudb_resources/contents/01/011/000011300.jpg	東大地震研図書室
諸国災害記録	吾妻川、利根川筋の被害村名 人的被害	http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/tokubetsudb_resources/contents/01/009/000009781.jpg http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/tokubetsudb_resources/contents/01/009/000009782.jpg http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/tokubetsudb_resources/contents/01/009/000009783.jpg http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/tokubetsudb_resources/contents/01/009/000009784.jpg	東大地震研図書室
太平秘録抜書　浅間山焼及普賢山崩	小諸周辺から碓氷峠にかけての降灰状況・交通情報 河川水の状況（温度・色）	http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/tokubetsudb_resources/contents/01/011/000011356.jpg http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/tokubetsudb_resources/contents/01/011/000011362.jpg	東大地震研図書室
浅間大變記	吾妻川沿いの被災村名 一部流出物の書き込み	http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/tokubetsudb_resources/contents/01/026/000026695.jpg http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/tokubetsudb_resources/contents/01/026/000026696.jpg http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/tokubetsudb_resources/contents/01/026/000026697.jpg http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/tokubetsudb_resources/contents/01/026/000026698.jpg	東大地震研図書室
浅間山焼上之図(坂本･安中を中心)	吾妻川流域、利根川深谷付近までの河川沿いの被災村名 流出物の種類、人的被害、噴出物の図、流下物の状況 用水の埋積状況、噴煙の状況・降灰状況と範囲、降下物の粒度	http://www.i-repository.net/il/cont/01/G0000307npmh/000/219/000219040.jpg?log=true&mid=undefined&d=1566957192242 http://www.i-repository.net/il/cont/01/G0000307npmh/000/219/000219041.jpg?log=true&mid=undefined&d=1566957270358	信州デジくら
【今回発見された資料】 **天明浅間・戌の満水等並びに覚書綴り**	吾妻川、千曲川流域における泥流流出範囲と被災した村等の名称 人的被害人数、家畜被害件数、家屋被災件数、関所等流出拠点施設 降灰厚さ、降灰量、降灰村名、降灰の範囲図化、降灰・降礫による人的被害状況		筆者（大里）所蔵

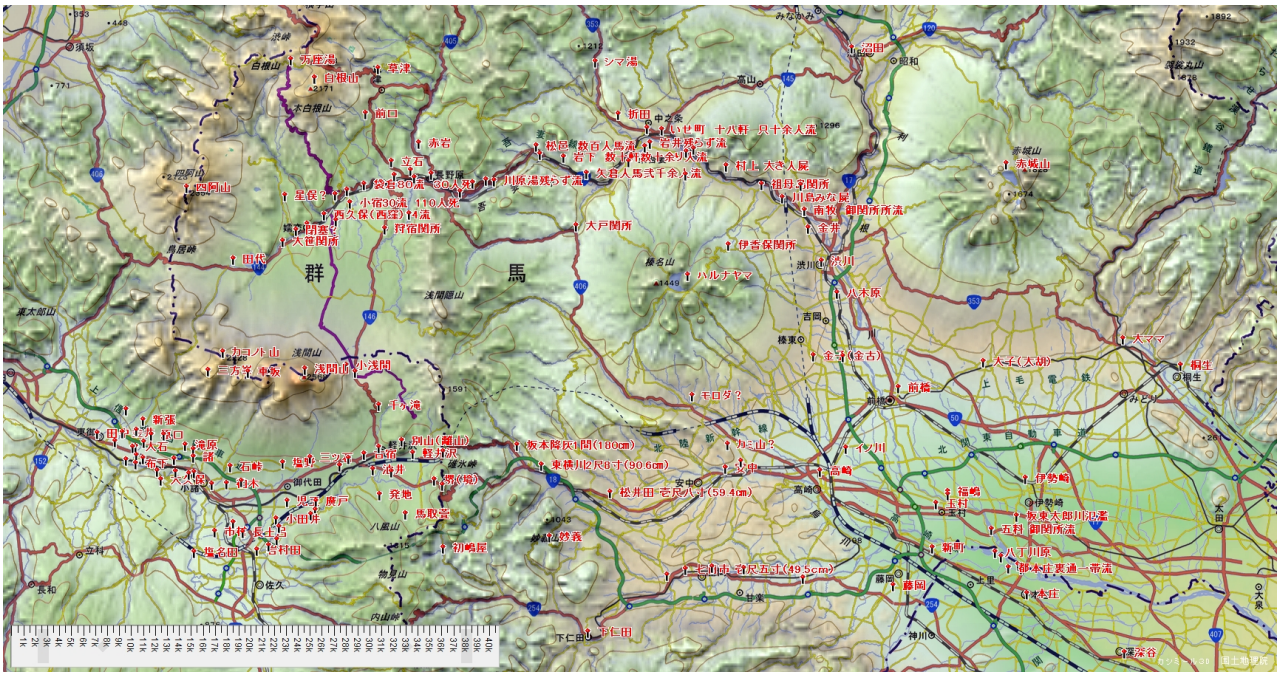

図２　天明浅間噴火絵図の記載範囲

絵図により記載内容に差異があり，今回発見された絵図は，絵図内に書き込まれた情報量がほかの絵図にくらべ多い。

また，今回発見された絵図の記載されている範囲を現在の地図に示すと，図２のとおりである。

泥流流下に関し多くの絵図が描かれている吾妻川流域のみならず，千曲川流域，本庄，深谷付近，下仁田 - 富岡付近等の利根川上流域と広範囲に及ぶことが把握できる。

また，千曲川側について描かれた絵図の存在は大変珍しい。

降灰に関する記述も，降灰厚さや降灰状況あるいは，降灰範囲として江戸や茨城周辺までの記載が行われており，広域の記述が本文書の特徴である。

被害状況についての記述も的確な記述が行われている。

被害状況では，流出家屋数，人的被害，流出物の内容，降礫・降灰被害，降灰による家屋被害が場所や具体的な数値とともに記載されている。

このような文書を分析して降灰した地域の特定と各地の降灰厚さの検証については，たとえば荒牧ほか（1998）[6] において記載地域における堆積物の検証などにより詳細に検討がなされている。

今回発見された文書についても，泥流の堆積域や降灰の堆積域における堆積物調査との比較検証など既論文と同様の検証が必要になる。

2.2　絵図を含む文書の翻刻作業について

翻刻作業並びに内容の把握については，蓮田市教育委員会所属学芸員及び教育委員会内の市民グループ組織である市民ボランティア学芸員との連携のもと行われている。

連携はまだ始まったばかりで，今後の方向性については未だ確定したわけではないが，連携の中でいくつか気が付いたことをまとめると，次のような課題点が見えてくる。

①記載されている地域名、村名等の位置情報に関する把握・共有及び共有するためのプラットホームの確保。ツール使用方法のレクチャー

②研究者側で把握できた内容及び見解の市民ボランティア学芸員へのフィードバック及び議論

③ 主として記載されている小諸市周辺市町村との連携

④ 絵図に記載されている地域の現地踏査

⑤ 成果公表の在り方

まず①については，市民ボランティア学芸員とのディスカッションの中で，文書を読んでいて位置がわからない場所が多いとの指摘がなされている。

これは，たとえば「離山」＝「別山」と言うように，地名が読みは同じでも別の字が用いられていたり，現在では存在しない字名や村名になっていたりすることが原因で，検索するための古い地図情報や検索が可能となる文献の所在などについて，研究者側のサポートが必要となる。

むろん前記したような文献を自分で探すことも市民ボランティア学芸員としての将来を考えると必要なことではあるが，ある程度の道筋を示しておくことも必要である。

また，地図情報を整理するための GIS 等のツールに関するレクチャーも必要になる。

②については，市民ボランティア学芸員が翻刻した内容についての研究者による精査→検証→市民ボランティア学芸員へのフィードバックと言った手順が欠かせないが，研究者と市民ボランティア学芸員とが濃密な議論を行うためには，地元に密着した研究者の対応が必要になること

を意味している。

現在，市民ボランティア学芸員とは図 3 の例に示したような書式による翻刻文章を提出していただいている。

このよう提出された資料のくずし字の読みについては，工学や理学の研究者にはチェックできない場合もあり，歴史系あるいは文学系の学芸員や研究者との幅広い連携が必要である。

図3　市民ボランティア学芸員の翻刻事例

（上の図画原本，下が市民ボランティア学芸員の翻刻）

本来は，提出された書面に対し，一つ一つ丁寧に講評することが必要だと思うが，やはり地元密着型の対応でないとなかなか難しい。

③についても②に類似して地元密着というキーワードが出てくる。本来今回見つかったようなローカルな事象に関する古典籍は，その土地の地形や風土，あるいは歴史とかかわりが強いため，関係する地域との連携は欠かせない。

一方，その地域以外での情報から示唆される内容によってはその地域で気が付かれていない内容について把握される場合もある。たとえば任地が変化する「奉行」の行動や実績などである。広域的な連携と古典籍に書かれている地域への還元と連携が重要と考える。

④については当然のことではあるが，文書の信憑性を検証するために現場踏査を行う必要があることを意味する。

この時③に示した文書が主題としている地域との連携が前提にあることは言うまでもない。

⑤についてはこういった運動で得られた成果をどのように公表するかである。

地盤工学会としても，市民ボランティア学芸員のような一般市民が研究成果を発表できる場の提供や，研究内容を吸い上げることができる敷居を下げたシステムが，重要になるのだろう。

3.　まとめと課題点について

以上のように古典籍等の文書資料を工学や理学で利用する場合の事例と課題についてまとめると次のとおりである。

3.1　まとめ

① 今回発見された史料については，江戸後期における 96 年間の事象を取りまとめたものである。

② 同史料については，ほかの絵図を伴う史料と比較しても遜色がない資料であることが分かった。

③ 吾妻川側の泥流に関する絵図は，多く見られるものの，同史料の絵図のように千曲川側の状況を示された絵図は少ない。

3.2　今後の課題

① 工学や理学研究者と歴史・文学系研究者及び市民との幅広い緊密な連携が必要である。

② 古典籍等が関係している地元への情報還元が必要である。

③ 一般市民が研究成果を発表できる場の提供や，研究内容を吸い上げることができる敷居を下げたシステムの構築が必要である。

④ 今回発見された史料に対しては，堆積学的な検証や気候学的な検証，あるいはほかの学際を巻き込んだ内容の把握が今後重要となる。

参　考　文　献

1)みんなで翻刻，国立歴史民俗博物館・東京大学地震研究所・京都大学古地震研究会（2017）
https://honkoku.org/
https://honkoku.org/app/#/about/introduction
2) 古典籍文理融合研究会 note，片岡龍峰（2019）.
https://note.mu/ryuhokataoka/n/nc9dd7b25190e
3) 石本コレクション，東大地震研究所
http://rarebook.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/ishimoto-old/
4) 東京大学地震研究所図書室特別資料データベース，東大地震研究所
http://wwweic.eri.u-tokyo.ac.jp/tokubetsu/
5) 信州デジくら，長野県
http://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000307cross
6）たとえば
荒牧ほか，古記録・古文書に残された浅間火山天明 3年の 降下火砕堆積物の層厚，火山第43 巻 (1998) 第 4号 223-237 頁